

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000142		
法人名	株式会社 成峰		
事業所名	グループホーム 花すゝき		
所在地	岡山県新見市高尾232-2		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族的な雰囲気、笑顔のある明るい生活の場をつくるように努力しています。
 ・市街地の住宅の一角に位置し生活と地域とが密着しています。
 ・同じ敷地内にはグループホーム花みずきがあり、日々の生活、行事など連携を取りながら取り組んでいます。入居者の方も日々の交流をして笑顔のある落ち着いた日々を過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目ですが隣接するグループホーム花みずきと共に地域の一員としてご近所の協力と理解を得ながら住民とのつながりを大切にされた日常が窺えます。又、日々の暮らしの中で笑顔を大切にされた支援に努め、入居者と共に明るい家庭的な雰囲気と一人ひとりを大切にされたかかわりが持てるよう取り組んでいる様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加させていただいたり、ホームの行事に来ていただいたり行事を通じて、地域の方、入居者のご家族との交流を持つ機会をつくり、グループホームの理解と協力を得られるようにしています。	事業所の運営基本理念の「地域に根差し、地域貢献に努めます。家庭的な雰囲気の中で、本人らしく暮らし続けることを支援します」を職員間で共有し、地域に根差したグループホームを実践している様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の日々の散歩、ホームの避難訓練等をつづじて入居者の方を知っていただけるようにかかわりを持ち交流しています。	町内会の清掃活動にも参加したいが、なかなか参加できていない現状の中、事業所の避難訓練の案内に近隣住民の参加があり、又、散歩時に入居者が間違っ他人の敷地に入ろうとしたりしても暖かく対応してくれるなど日常的な交流と関わりが窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事イベントに来ていただいたり、隣接のグループホーム花みずきでの認知症カフェに協力参加してその時に寸劇などを用いて認知症の理解、対応などについて話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催をしてホームの状況を報告しています。意見、助言をいただき、運営にいかしています。必要に応じて職員にも伝え、日々の生活に取り入れています。	社協・地域包括・地区の民生委員・地域代表・家族代表などが1名ずつ参加しています。無償参加してくれるボランティアを紹介してくれたり、座ってできるゲーム類の貸し出しがあるという情報などを得て、サービス向上に努めています。	これからも運営推進会議の意義を踏まえ、より多くの方に参加してもらえ様、土・日開催も含めて行政に働きかけ、なお一層意義深い会に努められることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて事業所の状況を報告し、改善策とか意見を頂くようにしています、またこちらから研修等の連絡をいただけるような関係をつくるように努力しています。	市町村との連携を通じ、インフルエンザ・感染症などの情報をメールで受け取るようにするなど協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の時間をつくり職員の理解が深まるように努めています。また、玄関においては入居されている皆様が自由に開け閉めできる環境をつくっています。	プチ勉強会を社内で実施。カギをかけない暮らしの大切さについて認識を深め、職員の見守りの方法を徹底し、また、言葉による拘束にならないよう支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の機会をつくり知識をつけるようにしています。入浴時に身体の変化異常がないか、観察して気になる点があれば、ケアマネ、管理者に報告して状況が共有できるようにしています。丁寧な言葉使いに気をつけ言葉による虐待の防止をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しているが、まだまだ理解に浅い部分があるので今後も学ぶ機会を持ち研修に参加していくように取り組んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って理解を得ながら説明をしています。わかりにくい部分については、繰り返し説明をして理解していただけるように努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等ご家族様が来られた時に、日頃の生活状況をお伝えし、同時にご本人様からの要望や、ご家族様からの意見要望を聞くようにしています。	家族の面会は頻繁にあり、遠方の方(海外在住の方も含め)には「たより」やメールでお知らせし、意見を聞くようにしています。面会時に家族とコミュニケーションをとることによって信頼関係を深め、なお一層安心・居心地のよい場になるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から退社時等に個別に話をする機会をつくるように心掛けています、その話の中で要望や悩み、気になる点などを聞かせてもらうように努めています。内容によっては上司に相談連絡をするようにしています。	職員の勤務態度や表情、職員間の様子などから現場環境の把握に努め、又、その都度声掛けし気づきや改善について傾聴し、現場ならではの気づきについては申し送りノートに書いたり、口頭で報告を受け反映させるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行い職員の精神的ストレス、不安など把握するように努めて、働きやすい環境をつくようにはしています。また、サービスの質の向上を目的に介護職員処遇改善加算を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルにあった研修に行くように努めている。研修においてはミーティングにて報告し、職員への周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でのケアマネの勉強会や医療連携会議には参加している。居宅介護施設連絡会議に出席して、サービスの向上につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない生活環境の変化で不安戸惑いが大きい中、ご本人の性格など考えながら他の入居者さんとスムーズになじめるように職員と一緒に座り話すようにしています。また、座る位置にも配慮してなじみやすいよう環境をつくっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族様から不安な点、要望、特に注意すべき点などをお聞きして日々の関わり方に活かすように努めています。また入居から一週間は何度かご家族様に様子をお伝えして、安心していただけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、ご本人とご家族様とよく話し合い、今までの状態をお聞きしながら、ご本人の意向とご家族の要望をふまえて何が必要かを話し合い対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームならではの家庭の延長、第二の家族のように、一緒に笑ったり、泣いたり、怒られたりと温かみのある接し方ができるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望をつたえつつ、ご家族の意向もききながら、必ずしもひとつにならない部分はありますがご本人の今の状況を伝えながら理解していただけるように努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で出たお店とか、なじみの場所とか受診等の外出の際に実際に見に行ったり、ご近所の方が地元のお菓子など持って来られた時には皆さんに話しながら一緒に食べるようにしています。	馴染みの場所に行くと不穏になる方もあり、様子を見ながら受診の時に行ってみたい所へ寄り道したり、隣接する「花みずき」の顔馴染みの入居者と会話をして馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでのイスの座る位置を考え、話が合う方、趣味が同じ方とかで座ってもらっています。また、居室にコタツがある方の部屋に気の合う方が集まりコタツで話をされています。見守りの中自由に出入りをされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も病院とか施設に出向き様子を伺ったり、ご家族様から話を聞かせてもらったりと、退居されてもご家族様がホームに連絡できるような関係づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前面接や入居時に利用者本人、家族の希望を聞き初回ケアプランを作成している。	入居者の思い入れのある品々・事柄について職員も思いを共有し、本人本位の希望は接することによって見つけ出し、気づきによって暮らし方の意向を把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接、居宅ケアマネジャーからの情報を頂き、退院後の入居の場合は地域連携担当相談員、介護担当者より情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のストレッチ運動、レクリエーションなどを通じて関わりを持つ機会をつくり、現状把握に努めています。出来ることなら時間がかかっても見守っていけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の話し合いで作成したケアプランのもとに、具体的な介護計画の作成に取り組んでいます。	職員を担当制にして入居者・家族とじっくり接することで思いや暮らし方の把握に努め、ケアマネジャーと担当職員が情報を共有し現状に即した介護計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録等により個別に情報共有が出来るようにしています。ミーティングにて実践方法や見直しを検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態、ご家族の状況をお聞きしながらその時に何が必要かを話し合い対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方との交流行事を通して、当ホームへの理解と協力を得ている。(地域の花見に参加、夕涼み会に招待、新見祭り、防災訓練など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族対応の受診やホーム対応の受診、家族と共に受診に同行する利用者を利用者の状況に応じて支援している。ホーム対応の受診の場合は家族に報告している。	かかりつけ医・協力医共、同じ医院で馴染みがあり円滑に受診支援が行われています。往診ができない市町村ということもあり専門医の受診を含め受診の大変さが窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状や介護上注意が必要な場合は申し送りノートを使い情報共有をしている。看護師が把握対応している。処置の経過等チェックし、相談等も対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は医療機関への情報提供と経過を把握するようにしている、退院が決まったら病院に訪問し情報提供を受けている。各病院の地域連携担当者が窓口になっているため連携は取れています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は軽度な入居者の方が多く、対象者はいませんが、救命救急蘇生法の訓練やターミナルケアの研修に参加して、今後に備えていきます。	看取りについて代表者と話していますが、方針が定まっていないのが現状です。これからも十分話し合っ方針の共有と支援に取り組んでいきたいと考えています。	何が起こるか予測不能です。終末期について全職員で話し合い共有する事で看取りへの意識と方針へ取り組んでいかれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼して救急蘇生法の実技訓練を行い、身に付けるようにしている。今後も繰り返し訓練を行うようにしていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しては年に2回は必ず避難訓練を行っています。災害についても地震体験車にて地震体験をするなど地震についての怖さ知識を深めています。	地震体験車には地域の方の参加もあり、地震時は外に出ないで机の下で待機、出るとしたら駐車場の真ん中に避難するのがよいとの助言がありました。また、地域の避難場所として指定を受けています。	災害対策において大切な避難できる方法を常にシミュレーションして、身に付けまた、近隣・地域と協力体制を大切にこれからも継続され、食料及び必要用品の備蓄もされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを意識してお1人お1人の個性を大切にして親しみある声掛けを意識しています。反面慣れあいにならないように気を付けています。	対人関係の基本はコミュニケーションと考え、先入観で、できない・言ってもわからないと決めつけず、認知症の理解と生活歴を理解し、一人ひとりの尊厳とプライバシーに気を付けて声かけるようにしています。また、お世話するのではなく、支援しているという認識の対応に心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服と特に極力選択肢があるように、入居者の方と一緒に選んで決めるようにしています。飴とか小袋のお菓子などもあえて、種類の違うものをお出して選ぶ楽しみの機会をつくようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方それぞれに希望や要望がありますので、いくつかのグループに分かれたり、一つにまとまったりして過ごすようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等の外出時には、前日よりご本人と話しながら服や帽子を選んで、“よそ行きの服”を決めるようにしています。ご本人が楽しみに笑顔になるように気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状態に応じて、皮むきをしていただいたり包丁を使える方には、台所に入ってエプロンに三角巾をして職員と一緒に野菜を切ったり、味付けをしたり手伝っていただいています。また、食器拭き等もそれぞれに役割をもって行っています。	メニューは職員で考えて、近くのマーケットが食材を配達してくれます。残存能力を活かして食事の支度を音、匂い、盛り付けなど五感を刺激しながら家族の一員として参加できるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて刻みをしたり、ミキサーにかけてつくっています。嚥下の悪い方には水分にとろみをつけてムセを防ぐようにしています。水分摂取もいろいろな種類で味を変えて飲んでいただくようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの方が声掛けでご自分でされている。部分入れ歯の方が多く、磨き残しがないように注意しています。入れ歯洗浄は職員が洗浄剤を入れるようにして、誤飲等の事故防止に注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を付けるようにして、排せつパターンが見えるようにしています。日中に夢中になって何かをされている時など、時間間隔をみて必要に応じて声掛けで誘導をするようにして、極力失敗の無いようにつとめています。	一人ひとりの残存機能に合わせたトイレでの排泄支援に努めています。見守り介助、排泄介助などプライバシーに配慮しながら自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクを中心に歩行、立ち上がり、お腹のマッサージなど身体を動かすようにしています。食事面でもなるべく自然排便を考え、サラダにオリーブオイルを使ったり、必要に応じて朝に冷たい水、牛乳を飲んでもらったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日～3日の入浴間隔になりますが、順番に入浴をしています。入浴剤を入れて保温効果を高めたり、入浴後に保湿ジェルを使ってかゆみの原因になる肌の乾燥を防ぐようにしています。	入居者に無理強いすることなく、一人ひとりの意向を尊重し、湯量・温度・一番風呂などの希望に合わせて安全に留意しながら、くつろいだ気分で入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで生活環境をもとに、なるべく近い居室の環境を作るようにしています。フロアに畳を敷かれたり、じゅうたんを敷かれたりと過ごしやすい環境、落ち着ける雰囲気を作るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診があると、受診ノートをつけるようにして、状態、薬の変更等職員に情報の共有ができるようにしています。服薬時も担当者のサインをして更にダブルチェックをして服薬ミスの無いように注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きの方が多いため、昭和の歌、音楽をかけたて口ずさんだり、懐かしの映像をみたりして、昔を思い出し、その頃の生活を回想して皆さんで話したりできるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回の遠足を実施しており、1回は入居者の方と職員で、1回はご家族の方、地域の方にも参加していただき一緒に交流を深めるようにとバスを借りて日帰りのできる距離で計画実施しています。	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として外出支援を活用しています。事業所の周りを日常的に散歩したり、近くの公園に行っています(公園に行った時は一人の方がブランコに乗ってみたいと言われ、他の方も次々に童心に戻ってブランコ乗りを体感されていきました)。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で居室でお金を持っておられる方もいますが、しまい忘れから、紛失等の問題もありますので、基本的には、同意のうえ預かり金としてホームの方で個々に管理をさせてもらっています。外出時は個々に使えるように持ち出しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が直接連絡されることは、あまりありませんが、ご家族が遠い方で中々お会いできない方には電話際に取り次いでお話しをしたり、メールにて写真を送らせてもらったりと少しでも状況をお伝えできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が作品づくりに熱心にされる方が多いので基本を職員が提案して作られた作品を季節感を出すために入居者の方と話しながら飾ったり、行事イベントの写真等も飾って入居者の方が見て楽しめるようにしています。	居間兼食堂の共用空間は高い天井にあたたかな床暖房・天窓があり、入居者の手作りの椅子カバー(名前と部屋のマークをつけて)からも暖かさが感じられます。四季折々のレイアウトでは、入居者の意見も取り入れ職員と一緒に居心地よく過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の中にこたつを持ち込まれている方があり話の合う方同士で、お互いに誘い合いあわれその方のこたつで日中を過ごされることもあります。入居者さん同士で、個人でも、居室の出入り、過ごし方は自由にできるように見守りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使われていたもの、大切なものを持ち込まれ、それを職員にも教えていただき、一緒に使わせていただいたり、大切にしているという事を共有できるように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各椅子に手作りカバーをつけて、個人のお部屋の絵と名前が見てわかるようにしています。そのカバーも入居者の方に縫っていただきました。また衣類にも名前だけでなく色分けをして、洗濯物も色で分けれるようにしています。		